

会議録

会議の名称	第3回子どもの権利に関する条例策定委員会
開催日時	平成20年4月28日（金曜日）13時00分から16時00分まで
開催場所	イングビル・3階第3会議室
出席者	（出席委員）野村委員長、安部委員、梅村委員、嶋田委員、古川委員、石田委員、小林委員 西東京市子ども福祉審議会 森田会長（設置要綱第6第4号による。） （欠席委員）猪原副委員長、神山委員、木曾委員 （事務局）西東京市子育て支援課（二谷部長、森下課長、鈴木主幹、萩原課長補佐、倉本主査）
議題	（1）アンケート調査について （2）その他
会議資料の名称	（1）西東京市子ども実態・意識調査 子ども用質問用紙（案） （2）西東京市子ども実態・意識調査 子ども用質問用紙（案） （3）西東京市立小学校児童数・学級数状況表-1・2 （4）西東京市立中学校生徒数・学級数状況表-1・2 （5）年齢別人口報告表 （6）西東京市の子どもに関する相談機関 （7）施設・年齢別相談件数 （8）施設別相談内容 （9）子どもの権利に関する意識アンケート調査について （10）子育て支援に関する調査（抜粋・写し） （11）西東京市子どもの権利に関するアンケート調査確認事項
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>発言者名 発言内容</p> <p>森下子育て支援課長 第3回子どもの権利に関する条例策定委員会を開催します。委員長お願いします。</p> <p>野村委員長 配付資料の確認をお願いします。</p> <p>萩原課長補佐 配付資料の説明</p>	

野村委員長

本日は、アンケートについて検討をしたいと思う。アンケートの策定から、回収、分析に至るスケジュールが、今後、決まってくる中で、スケジュールに多少流動的な部分が出てくる。そのあたりも含めて、検討をしていきたいと思います。

アンケートの確認事項という資料が配られているが、この確認をしていきます。

#### 1 調査対象・調査方法について

(1) 小学校5年生 800件（全校の指定するクラスに配布・回収 2週間程度）

(2) 中学校2年生 800件（全校の指定するクラスに配布・回収 2週間程度）

(3) 高校2年生世代800件（対象年齢無作為抽出による郵送調査）

(4) 大人 3000件（対象年齢無作為抽出による郵送調査）

大人については小5と中2の保護者への調査は重複する可能性があり、これはしない。

【確認事項】16歳の定義 平成3年4月2日生まれから、平成4年4月1日生まれ。

【確認事項】大人の定義 18歳以上

子どものアンケートの対象にしているのが17歳までとしているため。

森田子ども福祉審議会会長

回収に関して言えば、西東京市はアンケートの回収率は良い方。

なお、大人を18歳以上とすることについては、どうかと思う。他のアンケートでは20歳以上としている例が多い。他のアンケートとズレが生じると思うが。

野村委員長

大人の定義については、法令等でも解釈が違う。

ここで、調査票の中では、子どものアンケートの対象にしているのが17歳までとしているため、18歳以上を大人として無作為抽出にかけていくという意味です。

また、今後、子どもの権利条例を考える中でも、18歳というのがひとつの区切りになってくるし、他市の事例などでも20歳までをカバーしている例は少ない。

こんな議論があるので、あとで意見をいただければと思います。

次に、アンケート調査項目について検討していきたいと思います。

安部委員にご尽力いただき、アンケートの案が出てきています。

安部委員

子ども用のものと、大人用のものがある。

この中で、皆さんがお気づきになった点を教えていただければと思います。

まず、子ども用のものは全部で7ページあります。大きな項目としては3つあり、1番目は「自己肯定感（自分のことを大切に思っているかどうか）」に関するもの。2番目は「救済相談」についてのもの。3番目は「意見表明（参加）」について。

2ページから4ページは、他市との比較ということも考慮し、川崎市のアンケート調査をベースにして、あまり手を加えていません。5ページの相談にのってくれるところ以降は、西東京市独自のものという色を出していければと思いますので、お気づきになった点をご指摘くださればと思います。

まず、このアンケートでは、0歳から17歳までを子どもということにしています。

それから、小5と中2と高2世代が同じ質問用紙になっていますが、今後、高2世代に

については、もう少し別の質問を考える必要があるのではないかということもあり、別の質問用紙に変える可能性があります。

それから、名前等は書かなくて良いアンケートです。

また、子ども本人が書いてほしいということをお願いしています。

それから、全部答えなくてもいいアンケートです。虐待に関することなど答えにくいものもありますので。

また、外国籍の子どもたちもいるので、ルビをふってあります。

それから、学校での回収で、子どもにやさしい街づくりに生かすためのアンケートですということを書いてあります。

2ページ目をお開きください。2ページ目の前半は、年齢、性別などの子どもの属性について聞いています。その次に、西東京市が好きか？大人になっても西東京市に暮らしたいか？これは、あとに出てくる質問とクロス集計をして、何か影響があるのかについて見たいなということです。例えば、ホッとする場所が多い子は、西東京市が好きとか、将来、西東京市に暮らしたいとかいうことがでてくるかもしれないということです。2ページの真ん中から、生活の実態に関する質問。1.自分のことが好きか。2.楽しくて夢中になれるときはどんなときか。問2の選択肢については、古川委員ともいろいろと話をしたが、川崎市等の調査との比較を考えると、あまり選択肢を多くできないねということで、今の段階ではこの程度としています。問3.次の中で疲れること、不安に思うことについて。これも川崎市と同じ設問を使っています。問4が、ホッとできて安心できる場所です。この中の子ども文化センターを児童館に変えてください。図書館・市民館を図書館・公民館に変えたほうがいいかと思いました。問5が、自分が話したいことを何でも話せる人はだれですか？これも川崎市と同じです。問6から、つらくてどうしようもないことをされたことがあるか？というのが出てきます。その時どうしたか？4ページをお開きください。大人からつらくてどうしようもないことをされたことがあるか？誰かに相談したかどうか？を聞いて、5ページに相談にのってくれる場所として、西東京市で相談を受けてくれる場所を選ぶという流れになっています。問8は、資料の「西東京市の子どもに関する相談機関」から書いていますが、他にも相談を受けてくれるところがあるよということでしたら、教えていただきたいと思います。問8-1は、相談機関を知っているけど、利用したことがない場合の設問です。これはのちのち救済機関を考えていくにあたって、どういう理由で使わなかったかというのを明らかにしようということです。問9は、これとは別に、どんなところだったら、相談しようと思うかという設問です。

訂正します。選択肢の最後を17その他としてください。この中から3つ選びます。

子どもにとって、相談先を選ぶ基準をこの設問であきらかにできたらと思います。

6ページをお開きください。問10.左側に、生活の中で起こってくる出来事を、右側に選択肢を書いています。そのことを自分で決めたいのか？親と相談して決めたいのかなどです。これは、子どもの権利条例に関する調査などで、子どもの参加の権利が大事だと思うかについては、認知度が低い。しかし、自分に関わる何かの判断をするときには自分の意見を言いたいという意見が多い。引越しや大きな買い物などをするときに、親が勝手に決めてしまったりするとバトルになることが多い。

このあたりを聞いてみたいと。

7ページをお開きください。最後に、自由記述の欄があります。またパンダの絵の下に、おしらせがありますが、この委員会は大人しかいないので、子どもの権利につい

て、これから話すときに、子どもたちにも直接意見を聞く場があってもいいのではないかと考え、子ども委員会のようなものを募集できたらと思っています。

このお知らせをのせて、これらに関して、まだ言い足りない人などがいれば、この委員会に来てもらえればと思っています。

なお、大人の調査に関しては、子どもと対応する形になっていますので、ご議論いただければと思います。

#### 野村委員長

大人の調査についても、ざっと見ていきます。大人の調査についても、ご自身についてというのも大体同じ項目です。自己肯定感に関する部分も大体同じ、ただし、子どもについてどうかというのが入っています。途中の項目も同じように仕立てられていて、6ページのところで、子どもが自分で決めたいかどうかという項目で、大人にも同じようなアンケートをしていて、それが子どもとどういうふうに違うのかということを見ることができると、そんな仕組みになっています。

それでは、子どものアンケートから見ていきたいと思います。

説明の途中で、A3 縦の「子育て支援に関する調査（抜粋・写し）」というものが配布されましたが、これは5年前に西東京市で行った調査です。これは子育ての観点からのアンケート項目になっていますので、5年前にやったアンケートとの比較ということも大事だと思っていますので。

#### 森田子ども福祉審議会会長

資料の240ページからが、子どもの調査になっていますね。

#### 野村委員長

このあたりも目配りいただきながら、各項目について、ご指摘をいただければと思います。

他市との比較で言えば、川崎市もそうですが、その前に8自治体程度の調査項目もほぼ同じなので、8から9自治体の比較も可能なのではないかと考えています。

子どものアンケート調査のほうを見ていただきますと、最初にアンケートのお願いというのが書いてありまして、これについても後でご指摘いただければと思います。

2ページ。具体的なアンケート調査項目について、ご指摘いただければと思います。

#### 森田子ども福祉審議会会長

前文で、「子どもにやさしいまちにしていくための参考にします。」とあるが、子どもの権利に関する条例策定のためにはあえて書かなかったのか？

#### 安部委員

皆さんにお聞きしようと思ったのですが、大人のアンケートには、「子どもの権利に関する条例策定のために…」と書いたのですが、子どものアンケートにもそう書いたほうがいいのか？言葉の表現も含めてお聞きしたい。

#### 森田子ども福祉審議会会長

それは議論したほうがいい。

それと、問4の場所については、川崎市の図書館・市民館というところと、西東京市の図書館・公民館ではニュアンスが違うので、このへんを整理したほうがいい。

それから、問7については、西東京市は児童館が多いので、児童館の指導員、学童保育の指導員、教育相談センターの人なんかもでてくると思いますよ。

問10. ファッションや髪型とあるが、ファッションと髪型はぜんぜん違うものです。

髪型は髪の色を含めて子どもにとって非常に大きなテーマなので、分けてもいいと思います。

野村委員長

一番はじめのかがみの部分については、大人の調査票との比較がありますので、後で議論します。

森田子ども福祉審議会会長

川崎市とほとんどイコールなのは何ページまでですか？

安部委員

4ページまでです。

野村委員長

他市と違うところは、西東京市が好きですか？という西東京市に関する部分です。これはいいですね。

安部委員

年齢は4月1日現在としていますが、それでいいですかね？

それとも記入した日の年齢？

嶋田委員

あまり関係ないと思う。

野村委員長

それでは、今現在の年齢について聞くということにします。

次が自己肯定感についてということですが、問1までですね。

自分が好きか嫌いか、クロス集計する際のキーワードになりますので確認します。

森田子ども福祉審議会会長

「子育て支援に関する調査（抜粋・写し）」の242ページの問9にある。

嶋田委員

問1は、だれかのために何かをしたい人かどうか？という主旨の設問だが、小5がわかるかという疑問がある。

小林委員

他市との比較があるので、質問項目を変えられないということがあるのか？

森田子ども福祉審議会会長

そういうことはない。言葉のフレーズの問題でもある。項目を増やしたりもできる。

小林委員

自己肯定感について。

大切（大事）にはしてもらっているけど、必要とされていないのではないかという気持ちが子どもの中にあるのではないかと思う。

何でも買ってもらえるけど、一緒にいて楽しいと思ってもらっていないのではないか、自分は空気のような存在だと。そういう子どもの感覚を考えると、必要とされているかどうかといことが、重要なことだだと思います。

森田子ども福祉審議会会長

5年前の調査では、242ページの問9のところですが、いじめの問題やオンブズの必要性からも、この5つの選択肢は重要なものだったと思う。

野村委員長

(1) 自分のことが好きだ。(2) 自分は人から必要とされている。(3) 自分のことを誰もわかってくれない。(4) まわりの人とあまり変わらないようにしている。(5) 社会に役立つことをしたい。

分析のキーワードになりますので、問1はこの5項目でいきます。

次は、川崎市と同じ部分、問2から4ページまでについて。

嶋田委員

問2. 楽しくて夢中になれることの項目について。フリースペース、フリースクールは市内に少ない。しかも個人的にやっているところだけ。西東京市には育成会がたくさんあり、行事も多い。

森田子ども福祉審議会会長

5年前の調査では、252ページのところにある。

市民祭りとか、地域の行事もあるのでは？

嶋田委員

児童館と地域がタイアップした行事も多く行われている。

野村委員長

「育成会など地域の行事」とし、「児童館の行事」を追加でいれます。

石田委員

仕事のところですが、アルバイトも必要では。

野村委員長

「仕事・アルバイト」とします。

石田委員

学校で、休日などに校庭開放、体育館の開放があり、利用者も少なくない。

野村委員長

「校庭開放」を追加します。

森田子ども福祉審議会会長

休日の野球やサッカーをやっているスポーツ少年団は？

野村委員長

「習い事、スポーツ」に含めると考えたい。

嶋田委員

パソコンや携帯電話はメールをイメージしているのか？

古川委員

ここは議論のあったところ。携帯でゲームしている子もいる。

嶋田委員

ゲームが入ってないね。任天堂のDSとか。

パソコンや携帯電話という項目で、ゲームは想像しない。

野村委員長

議論があった。ひとりでゲームしているのか、対戦型ゲームなのか。  
ネットもないか。

安部委員

メール、ゲーム、インターネットを入れます。

小林委員

ダンスのところは、音楽もいれれば。

安部委員

バンド・ダンスとします。

野村委員長

問3. 疲れること、不安に思うこと。

これはいいですね。

問4. ホットでき、安心していられる場所。

森田子ども福祉審議会会長

このカテゴリーは5年前の調査の250ページあたりのところに出ている。

嶋田委員

市民会館は行事のとき以外は使われない。むしろ地区会館とかコミセンが子どもにとっては身近な存在。うちのコミセンは昨年度52,000人の利用者があった。

安部委員

地区会館（コミセン）を入れます。

森田子ども福祉審議会会長

スポーツセンターの利用も多いのでは。

安部委員

スポーツセンターを入れます。公民館は？

嶋田委員

ロビーが居場所になっている。

安部委員

公民館を入れます。

小林委員

「子どもの支援の相談・救済」の9ページのところに、家の中で安心していられる場所として、「家族と一緒にくつろぐ部屋」をあげずに「自分の部屋」のみをあげる子どもが存在し、その傾向が自己肯定感の低い子どもに顕著に現れ、それをおとながとらえきれていないという記述があるが。

嶋田委員

前の調査の249ページのところで「自分の部屋にいるとき」が58.9%と非常に高い。あと、「お風呂に入っているときが高い。」これはわかるなぁと思った。

知らない人が見ると、子どもは自分の家が好きなんだと思うかもしれないが、そうではなく、自分の部屋が好きなんですね。

それと、子どもに聞いてみると、親と一緒に食事をしたいというのが多いです。

我々が知りたいのは、その子の状態が知りたい。子どもの心というか。

家族といるとホッとできないで、自分ひとりでいるときはホッとできるのか？そのへんは知りたいところです。すごくリアルですが。

思うのは、子どもがホッとできるかどうかというのは、「場所」ではない。ホッとできる「人」と一緒にいるかどうか？「ひとり」かどうかだと思う。

野村委員長

前の調査の249ページの間4と同じにしましょう。



問5.自分が話したいことを何でも話せる人。これはいいですね。

次、問6.友だちや先輩などから「つらくてどうしようもないこと」をされたことがありますか。「その時、どうしましたか」、「だれかに相談しましたか」、「相談してどうになりましたか」。

嶋田委員

5年前の調査だと「いじめを受けたことがありますか」。

古川委員

「だれかに相談しましたか」のところに、「児童館の先生」を入れたら。

安部委員

「児童館の職員」を入れます。

野村委員長

あとは原案どおりでいいですね。

次、問7.おとなから「つらくてどうしようもないこと」をされたことがありますか。「その時、どうしましたか」、「だれかに相談しましたか」、「相談してどうになりましたか」。

小林委員

「だれかに相談しましたか」のところに「先輩」を入れたら。子どもにとっては少し年上の先輩に相談したりすることが多い。

嶋田委員

先輩を通じて、児童館の先生に相談することもある。

野村委員長

「先輩」を入れましょう。あとはいいですね。

問8.子どもの相談を受けてくれるところについて。

嶋田委員

私、毎週月曜日に学校の相談室にいるんだけど、休み時間なんかによく来ますよ。項目の中で、教育相談センターと言われてピンとくるかな？

あと、スクールカウンセラーは人だよな。

森田子ども福祉審議会会長

市役所の教育相談センターにしたら。

野村委員長

市役所の教育相談センターとします。

あと、スクールカウンセラーを学校の相談室とします。

森田子ども福祉審議会会長

ひよっこは？

二谷子育て支援部長

通所訓練施設だが、相談もされることがある。

石田委員

その他も入れたら。

野村委員長

ひよっこを入れて、その他を入れましょう。

次、問9.どのようなところだったら相談しようと思いますか？

いいですかね。

最後に、問10.何かを決めるときにどうやって決めたいか？

森田子ども福祉審議会会長

ファッションと髪型は違うと思うが。

嶋田委員

生徒会とかでは服装という言葉を使っているが。

小林委員

服装というと、スカートの丈とか。

石田委員

眉毛を剃るとか、カバンとか。ファッションになるか。

嶋田委員

ピアスも入る。

野村委員長

自分の見た目は自分が決めたいというカテゴリーになる。

服装・髪型・ファッションにしましょう。

小林委員

勉強をするしないとか、どのくらいするかなど。

野村委員長

風呂・食事・勉強等の生活時間にしましょう。

森田子ども福祉審議会会長

前の調査の246ページのところで、子どもと接するとき、おとなに心がけてほしいこととあるが、条例文を考える上でも、必要だと思います。

嶋田委員

これは必要。参考になる。

森田子ども福祉審議会会長

やはり、前の調査の246ページのところで、子どもの権利について大切だと思うことは何かという設問があるが、これ入れる？

小林委員

あまり「子どもの権利」と言うと、「権利」ばかり主張すると受け取られることも多いので、「子どもにどう関わっていくか」という「大人の義務」を考えてもらえるようにすると良いと思う。

嶋田委員

子どものアンケートなので、子どもから見て大人に心がけてほしいことがあればいいと思う。

子どもと大人の目の違いというか。

森田子ども福祉審議会会長

そうね。やはり、条例の中で、子どもから見て大人に心がけてほしいことも検討材料になる。

野村委員長

では、子どもから見て大人に心がけてほしいことを入れることにします。

大人のアンケートには、アンケート用紙のはじめの部分に、「子どもの権利に関する条例策定のために…」と書いたのですが、子どものアンケートにもそう書いたほうがいいですかね。あえて変えることはない。ではそうします。

では、おとなのアンケート用紙。

まず、問1.は、こどものアンケートと表現をあわせる。

問2.はいいですね。問3.も表現を変えますね。問4.は入れ替え。問5.も表現が変わります。問6.も表現が変わります。問7.問8はいいですね。問9.あなたは子どもをたたくことがありますか？

嶋田委員

最近、若いお母さんが、子どもをひどい言葉で、大声で、どなったりしているのをよく見かける。これを質問項目に入れられないかなあ。

野村委員長

子どもを大きな声でしかることがありますかを入れましょう。他は？

よろしいですか？では、この内容で調整させていただきたいと思います。

資料4は？

森下子育て支援課長

学校や校長会に説明する資料です。

学校側から質問された。例えばいじめを受けたのは、「いつ」の時点で書くか？ということですが。

野村委員長

例えば、いじめを受けたという設問については、「過去に」ということにします。

資料3については、西東京市の子どもに関する相談機関の一覧です。

次回は無理ですが、6月頃に相談窓口となっている関係機関に会議に出席していただいて、報告していただいて、そこでいろいろ聞く機会を設けたいと思っています。

あと、今後は、教育委員会などの関係課にもご出席いただければと思っています。条例案を策定していく中で、庁内調整は必要になってくると思いますが、あとになってから、「聞いてないよ。」というのはまずいので、今後は、是非関係課も出席していただくような形をとっていただきたいと思います。

その後は、子どもワークショップを考えています。

次回の日程。5月20日の1時、田無庁舎の3階庁議室とします。

以上にて終了